

別紙 2

団体の活動状況

1 団体の概要

(1) 主流派及び上祐派について

いわゆるオウム真理教（団体）は、麻原彰晃（以下「麻原」という。）に対する絶対的帰依を明示的に強調する主流派（「Aleph」及び「Aleph」と一定の距離を置いて活動する「山田らの集団」を含む。）と、観察処分を免れるため麻原の影響力を払拭したかのように装う上祐派（「ひかりの輪」）を中心に活動している。

(2) 構成員数

団体は、国内に約1,650人の構成員を擁し、ロシア国内にも構成員を擁している。

(3) 団体の資産

団体が報告する資産（現金・預貯金・貸付金）については、令和4年7月末時点における総額が約8,300万円である。団体の資金源は、在家の構成員を対象とした年3回の集中セミナーなどの各種イベントの参加費や布施によるものである。

(4) 団体の施設

国内における団体の拠点施設については、15都道府県に主流派25施設、上祐派5施設の計30施設が存在している。

2 主流派の活動

主流派は、依然として、施設内の祭壇等に麻原の写真を掲示し続けているほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される状況下において、人数や時間を制限しながらも、在家の構成員を施設に集めるなどして、集中セミナーや麻原の誕生日を祝う生誕祭等のイベントを開催するなど、麻原に対する絶対的帰依を扶植する指導を継続している。

また、主流派は、団体名を秘匿した上で、組織的な勧誘活動を積極的に展開している。

3 上祐派の活動

上祐派は、トークイベントなどを通じ、対外的には麻原からの脱却をアピールする“麻原隠し”の取組を継続的に推進している

が、施設内には、依然として麻原を投影した仏画を掲示し続けているほか、集中セミナーを開催し、過去に麻原が行ったものと本質的に変わりのない修行を実施するなど、今なお、麻原の影響下にある実態が確認されている。

また、上祐派は、上記集中セミナーのほか、上祐史浩が“麻原ゆかりの地”と位置付け、麻原と深い関係が認められる神社仏閣等を訪問する「聖地巡り」を繰り返し実施するなどして、構成員の指導を行っている。

以 上